



野口謙蔵記念館

アーティスト・イン・レジデンス 2025
活動記録集



野口謙蔵記念館 アーティスト・イン・レジデンスについて

蒲生郡桜川村綺田（現・東近江市綺田町）出身の洋画家・野口謙蔵（1901-1944）。東京美術学校（現・東京芸術大学）で黒田清輝や和田英作に油彩画を学び、同級生が卒業後フランスへ留学する中、帰郷して生涯を蒲生野の情景を描くことに捧げました。彼の作品は、当時油彩で日本画的な詩情を表現する新しいものとして高く評価され、没後 80 年近くたつ今も多くの人に愛されています。



謙蔵が昭和 8 年に建てたアトリエを改築復元した野口謙蔵記念館は、これまで謙蔵の作品や資料を展示していましたが、令和 5 年度に施設改修を経てアーティストの活動拠点として生まれ変わりました。その事業のひとつとして、この度第 2 回目となるアーティスト・イン・レジデンスを実施しました。

選考について

- 募集期間 令和 7 年 6 月 1 日～7 月 11 日
- 応募総数 12 人
- 地域別 東近江市内：1 人
滋賀県内：3 人
県外：8 人
（東京都、大阪府、兵庫県、愛知県、長野県）
- 審査員 藤井俊治（成安造形大学講師・画家）
荒井保洋（滋賀県立美術館主任学芸員）
西澤沢美（蒲生地区まちづくり協議会副会長）

一次審査（書類） 令和 7 年 7 月 31 日

二次審査（対面） 令和 7 年 8 月 20 日



作家情報

あさくら ゆき
浅倉由輝 漆・美術家

兵庫県尼崎市在住

1994年 大阪府生まれ

2017年 京都市立芸術大学 美術学部
工芸科漆工専攻 卒業

2019年 京都市立芸術大学大学院
美術研究科修士課程
工芸専攻漆工 修了

関西を拠点に、生きた素材である漆と向き合いながら、空間・時間・人との関係性を探る作品を制作している。



近年の活動

- 2025年 「うるしの呼吸と、陽の記録」 Telescope Kyoto 京都
「ねるneru 企画『ぐねる』『トンネル』」 OAG Art Center Kobe 兵庫
- 2024年 「京都アンティークフェア 夢工房ブース『うるしvoice』」
京都パルスプラザ 京都
- 2023年 「京都芸大同窓会 アートオークション2023 Hands on」 @KCUA 京都
- 2022年 「ふきよせー 陶と木と漆のあるくらしー」 なかの邸 京都
- 2021年 企画展「ノラン/ナラン」 Books×Coffee SOL.2F ノランナラン 京都
- 2021年 グループ展「川で交わるつながる繕う」 高瀬川四季Air 京都

ワークショップ

- 2024年 実験会「OAC 自然農法庭部+neru 企画 鑑賞と対話
『うるしを愛でる うるしを眺める』」
OAG Art Center Kobe 兵庫
- 2023年 染めと製本のワークショップ「ランドスケープのつづき」
ノランナラン・タローハウス 京都
- 2021年 勢山竹材店共同「竹とうるしのコラボワークショップ」
西天満地域福祉センター 大阪
- 2021年 地域交流「こぐまとさつまいもーみたてのレッスンー」
高瀬川南市営住宅集会所 京都

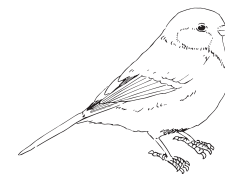
滞在期間

令和7年10月15日(水)～12月21日(日)のうち46日

リサーチと制作

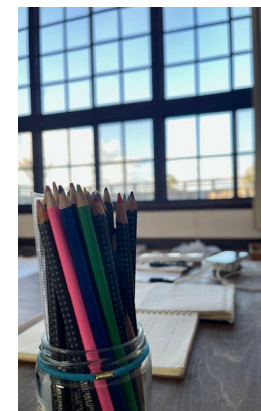
作品制作の取材のため市内各所を散策し、地域の自然や文化にふれ、制作期間中にはワークショップの開催やアトリエを公開。市民と交流する中で得たものをもとに作品制作に取り組んだ。

また、市内の図書館に「エピソードの回収巣箱」を設置し、地域の人から東近江市の身近なお話を募集。「好きな風景」「おいしい食べ物」「お気に入りの場所」「季節のできごと」など、175 件のエピソードが寄せられた。



アトリエ公開日

11月22日(土)、29日(土)、12月6日(土)



制作風景



ワークショップ

「粘土にきおくのもようを描く」

漆作品の制作過程を体験する。思い出を辿り、その記憶を模様にし、粘土に描く。参加者が制作した粘土型に作家が漆を塗り、作品に仕立てた。

市内のイベントや施設に赴き、のべ50人が参加した。

プレワークショップ

10月25日(土) 近江商人博物館

1回目 10月27日(月) アトリエオクハシ

2回目 11月1日(土) 蒲生図書館

3回目 11月8日(土) 蒲生コミュニティセンター

4回目 11月16日(日) 永源寺図書館

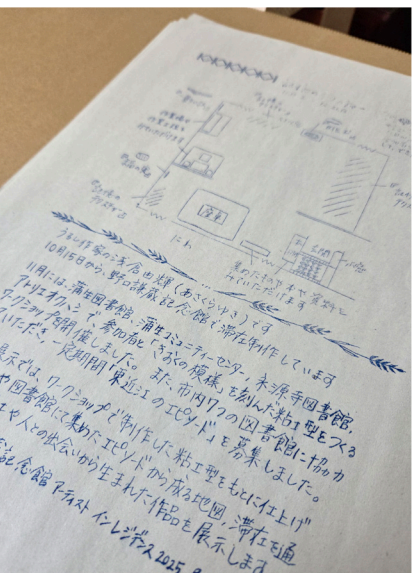
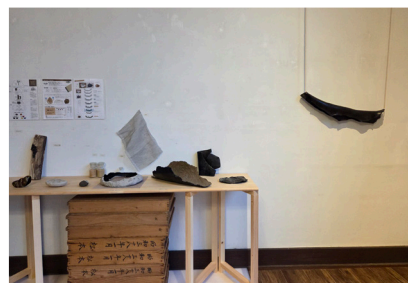


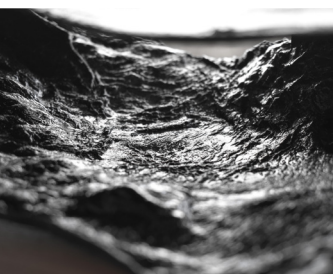
滞在制作作品展「記憶のテクスチャー」

12月13日(土)～12月21日(日)

滞在を通して地域の風土や人々との出会いから生まれた作品を展示。
また、ワークショップで参加者が制作した「きおくのもよう」を刻んだ
粘土型をもとに仕上げた漆作品のほか、関連イベントとして市内の図
書館で集めた各地域のエピソードをもとに作った地図を展示した。

来場者：123人





滞在制作をふりかえって

黄金色に実った稲穂が風に揺れ、秋の深まりを感じる頃、野口謙蔵記念館を訪れました。周囲を囲む山々は山吹色や橙色に染まり、さらに上を見上げれば日々異なる空の表情に出会いました。夕暮れ時の景色はとりわけ美しく、外に出ると夕日に照らされた空のグラデーションが広がります。約二ヶ月の滞在は、こうした季節の移ろいの中にありました。

記念館には北に大きな窓があり、南には庭へとつながるガラス扉があります。やわらかな自然光が差し込み、遠くの山々を望むことができます。移ろいゆく風景をなぞるように写真に記録しながら、そして、初日に顔を合わせて以降、気配だけは感じる一匹のヤモリとの再会を願いながら、漆とともに滞在制作の日々を過ごしました。

記念館から望む景色や、永源寺の山で知った伏流水の土地のあり方から制作の着想を得て、そして、山々に雲が落とす影や、太陽に照らされて浮かび上がる山肌、川の水が地中へと潜り込む様子を、作品の形や模様へとつなげていきました。

地域の方々とともに制作した「記憶のテクスチャー」にも、それぞれの記憶の触感が模様として刻まれ、その記憶に対する想いが色や艶としてあらわれています。

この場所で得た感覚や生まれた作品は、滞を終えた今も、制作の中で静かに息吹いています。

実りの季節の穏やかな時間が、日々の中にも広がりますように。





東近江市内にあり

7つの図書館で東近江にまつわる

エピソードを募集しました。

集まったエピソードを手がかりに、それぞれ7つ

図書館を起点に地図をつくっています

